

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第6回 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	平成27年10月20日(火) 午後6時 ～ 午後8時
開 催 場 所	市役所3階 301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：委員6名 欠席者：内野委員
議 題 等	1 報告 (1) 第5回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の会議要旨について 2 説明 (1) 子どもの貧困の状況について 2 議題 (1) 基本目標2の施策について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 報告 (1) 第5回推進委員会の会議要旨について承認 2 説明 (1) 特になし 3 議題 (1) 当推進委員会委員の総合戦略(素案)の確認方法について、事務局にて検討する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 報告 (1) 第5回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の会議要旨について (事務局) 第5回会議要旨を用いて第5回会議の概要について説明 <結論> ・第5回推進委員会の会議要旨について承認する。 2 説明 (1) 子どもの貧困の状況について (事務局) 武蔵村山市の就学援助率、生活困窮者の相談窓口の取組状況等について説明 3 議題 (1) 基本目標2の施策について (事務局) 基本目標2の具体的な施策3「子どもの知力・体力向上プロジェクト」について説明 —質疑・意見等— (委 員) 具体的事業のKPIにある「全国平均正答率に対する平均正答充足率」とは何か。 (事務局) 全国平均点の8割ということで、武蔵村山市の平均点を全国平均に近づけたいということである。 (会 長) 学力調査の難易度次第で正答率が変わるが、KPIとして妥当か。 (事務局) 学力調査は経年比較ができるよう、例年なるべく同じ程度の難易度にされているはずである。 (委 員) 特進講座を受講した児童・生徒を対象にした場合、特進講座の成果をみるときに、年に1度しか行われない試験では測れないのではないか。 (委 員) 事業自体の評価は可能だろう。

	<p>(会 長) 年度末に調査が行われれば、特進講座の成果も分かるだろう。</p> <p>(事務局) 学力調査は年度初めに行われる。</p> <p>(会 長) それでは成果の確かめようがないのではないか。</p> <p>(委 員) 進学重点校に指定された都立高校では結果を求められるが、市立中学校の特進講座にそれを求めるのは不可能なのか。</p> <p>(事務局) 塾の講師を試験的に招聘し、講座を持っている中学校もある。</p> <p>(副会長) 受講している20名は、特進講座のほかに塾にも通っている可能性があるのでは、特進講座の効果か私塾の効果が分からないのではないか。効果測定を行おうとするのであれば、特進講座だけを受講していることを前提にする必要はないか。</p> <p>(委 員) 発展的学習をする児童・生徒は、家庭も教育に熱心なので私塾に通っている可能性が高い。本来、支援を行うべきは、学習機会を持たない家庭の子どもたちではないか。</p> <p>(事務局) 特進講座と私塾の両方に通うという傾向はそうだと思う。それは例年変わらないと思うので、現状と特進講座受講後の成績の推移をみれば、特進講座の効果をみることは可能ではないかと考える。</p> <p>(副会長) 子どもを私塾に行かせることのできる家庭環境の子どもよりも、その支出ができない家庭の子どもに対して学校側で支援していくのが望ましいのではないか。</p> <p>(委 員) 現時点で私塾と特進講座の両方を受けている生徒はいるのか。</p> <p>(事務局) 希望制なので、中学校は意欲があり、成績のよい生徒が集まっているようだが、小学校はまちまちだと聞く。</p> <p>(委 員) 受講生の学力レベルの差をどう捉えるのか。低いレベルに合わせると講座の効果が薄まるが、レベルが高すぎて効果が出ない。児童・生徒の水準に合わせる必要があるだろう。レベル設定をしないと外部から講師を迎えても効果的な講義にならない。</p> <p>(事務局) これまで基礎・基本を中心としてきた学校も変化してきている。外部から講師を迎えるのもその表れだろう。</p> <p>(会 長) 新規事業であれば、効果測定のために試験期間に受講生にアンケートをとるなど工夫してもらいたい。また、私塾に通わせることのできない家庭への支援も考えてもらいたいという意見があったことを留意してもらいたい。</p> <p>(委 員) これまでも学力調査を行っていたと思うが、その成績はどれほどだったのか。目標値の設定は過去の成績を踏まえるべきだろう。進学率80%という目標も、現状値によるのではないか。</p> <p>(会 長) 今年度の学力調査が既に終わっていると思うので、その数値を現状値として示してはどうか。</p> <p>(事務局) 今年度は4月に小3と中1を対象として学力調査を行った。特進講座の対象は小6及び中3であるので、今年度小6の特進講座の受講者が、中1になったときの学力調査の結果を測定する予定である。</p> <p>(会 長) 高1はどのように把握するのか。</p> <p>(事務局) 高1は測定できない。</p> <p>(委 員) 小学生に対する目標値をどのように設定するのか気になる。</p>
--	--

	<p>る。</p> <p>(委員) 知力・体力向上プロジェクトの目標値が高校進学率だけでよいのか。体力測定の結果も指標としなくてよいのか。スポーツで伸びる児童もいるので、学力だけに偏るのは気になる。</p> <p>(委員) 体力に関しては、部活動支援事業の目標値が入部者数の前年度比20%増と示されているが、特定の部活が対象となるのか。</p> <p>(事務局) 各中学校一つの部活動について専門的な外部指導員が派遣される。</p> <p>(副会長) 目標値を「前年度比」とすると、学校が力を入れる部活動を変えてしまうと数値がとれなくなるのではないか。</p> <p>(委員) 前年度比20%増を5年間続けることは容易ではないのではないか。</p> <p>(副会長) 平成31年度において、平成30年度と比較するものだと認識しているがどうか。</p> <p>(会長) あまり部員が増えすぎると指導が行き届かなくなるというデメリットもある。</p> <p>(事務局) 事業を始めてすぐ効果が出るものではなく、入部者数はすぐには増えないと思う。</p> <p>(副会長) 数値の定義を示さないといけない。</p> <p>(委員) 毎年評価するという話も聞いているので、単年度で数値の変化を追うことになるのではないか。詳細まで決めておかないと、来年度以降の評価が立ち行かなくなる。</p> <p>(事務局) 毎年比率は出せるが、平成31年度の段階で前年度比で目標を達成しているかどうかを測りたい。</p> <p>(委員) 都大会出場などの結果にした方がよいかもしれない。部活動については人事についても留意いただきたい。顧問が異動したことで弱くなったり、廃部されたりする危機もあると聞いている。</p> <p>(委員) この施策は、トップクラスを引き上げるためのものになっているが、全体の底上げを図る必要はないのか。</p> <p>(事務局) 漢字検定、英語検定は底上げにつながると考えている。</p> <p>(委員) 発展的学習のための支援だけでなく、基礎的な学力が必要な児童に対する取組が必要なのではないか。</p> <p>(事務局) 学力向上策は既にいろいろと取り組んでいる。基本は基礎学力だと認識している。発展的学習を一部の児童・生徒が受けることで、周囲にもよい影響が表れているという報告もある。</p> <p>(委員) 基礎学力の取組をしても学力が低いことが気になる。</p> <p>(事務局) 教育委員会でも学力の低さは気にしており、対応を検討しているところである。ただし、人材・予算の点で実行に移すのが難しい面もある。</p> <p>(副会長) 施策のKPIに高校合格率とあるが、レベルの低いところを受験していたら合格率は上がる。漢字検定、英語検定も同様なので、学力の底上げを図るのであれば、単純に合格率のみを指標とするより、合格級の構成比も捉えた方が事業の成果が分かりやすい。受検学年相当級より上位級の合格者が増えることを指標とするのはいかがか。</p> <p>(委員) 漢字検定・英語検定を公費で受検できるのは小学校・中学校で各1回ということなので、指標としては、卒業時</p>
--	--

	<p>点である等級以上をクリアしている児童・生徒の人数としてはどうか。公費で受検した上で自学自習することもあるだろう。</p> <p>(事務局) 基本目標2の具体的な施策4「教育環境の整備」について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(副会長) 施策のK P Iについて、適応指導教室からの学校復帰率の現状値を教えてください。</p> <p>(事務局) 現状は6%である。</p> <p>(委員) スクールカウンセラーの勤務日数は現状のままだと思うが、そうすると現場職員の努力によって不登校出現率や復帰率を減らすことになるのか。</p> <p>(事務局) スクールカウンセラーは東京都の職員なので、都の方針に従うことになる。現状では人員増等の予定はない。</p> <p>(委員) 学校に復帰することが必ずしもよいことではないと思う。通えない子どもがいることを前提に、フリースクールを学校として認める動きもある。</p> <p>(事務局) 学校に復帰できない子どもを救済する道も確かにあるが、復帰の支援も大切だと思う。</p> <p>(副会長) いじめ問題は機微な事柄だが、市としていじめに対応することはないのか。いじめにあった児童・生徒のケアは見られるが、いじめの未然発生や、いじめている側のケアは考えているのか。</p> <p>(事務局) 今年度教育委員会がいじめを認知しているのは1件と聞いている、対応マニュアルも整備されており、教員への指導も行っている。積極的にいじめ撲滅の取組はしている。</p> <p>(副会長) 本人が気付かないうちにいじめに加担していた場合もあり、いじめる側が認識していないケースもある。画一的な対応は難しいので、家庭環境なども含めて個別に対応する必要もある。複合的な問題なので、マニュアルがあるから大丈夫という話でもない。いじめの認知件数をゼロにするという目標を設定しても良いと思う。個別のカウンセラー対応などがあると分かりやすいし、安心感がある。</p> <p>(委員) 特別支援教室の全校設置はよい取組である。</p> <p>(事務局) 基本目標2の具体的な施策5「社会の変化に対応した教育の推進」について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員) ICT教育の推進に関しては、インターネット上での情報の取捨選択能力が大切なので、メディアリテラシー教育も組み合わせて行ってほしい。</p> <p>(委員) コミュニティ・スクールの総会の参加率の分母は何になるのか。</p> <p>(事務局) 確認する。</p> <p>(委員) 各小・中学校で特色のある学校づくりに取り組んでおり、ICT教育の推進は特色となって、学校選択制にもつながると思われるが、タブレット端末が導入されている学校とそうでない学校があり、格差が生じないか気になる。全校において、一定水準は整備してほしい。</p> <p>(会長) 特色ある学校にするための事業なのか、試験的に導入す</p>
--	---

	<p>るモデル事業なのか。後者だと理解していたが、どちらか。</p> <p>(事務局) 試験的な導入と理解してもらいたい。</p> <p>(事務局) 基本目標3の概要について説明</p> <p>(会長) 基本目標3の施策等についての意見等は、10月23日(金)までに事務局宛てにお送り願う。</p> <p>(2) その他</p> <p>(副会長) 最終的には施策を取捨選択し、指標や表現も変更するという説明があったが、最終版が推進委員会委員に開示されるのはいつか。</p> <p>(事務局) 12月にパブリックコメントを行う。その段階で素案を確認いただくことは可能である。素案ができ次第、お送りする。</p> <p>(委員) 素案以降も変更があると思うが、素案として決定・公開される前に、委員会として確認するために再度推進委員会を開くことは考えられないか。推進委員会での協議も途中段階なので、検討してもらいたい。</p> <p>(会長) 委員は自分たちの意見の反映状況も確認したいただろう。パブリックコメントより前に確認できる機会をもてるとよいと思う。</p> <p>(事務局) 検討する。</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<p>■公開 傍聴者：__0人</p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p>( )</p>
-------------	--

会議録の開示・非開示の別	<p>■開示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示(根拠法令等： )</p> <p><input type="checkbox"/>非開示(根拠法令等： )</p>
--------------	---

庶務担当課	企画財務部 企画政策課(内線：374)
-------	---------------------

(日本工業規格A列4番)